

鯛もひとりには旨からず

島根県 さいぜんじ西禅寺住職 お がわ ゆう し小川裕史

今朝は鯛もひとりには旨からずというお話です。

「鯛も一人はうまからず」このことわざは魚の中でも一番上等とされる鯛でも一人で食べたのでは、その旨さは、わからない、という意味です。みんなで食べる楽しさは、昔から大切にされていたのですね。

私が園長をつとめる保育園にお菓子が大好きな兄妹がいます。ある日、そのお菓子好きの兄妹のお兄ちゃん岳史君が誕生日を迎えました。保育園では朝から誕生日ケーキの話でもちきりでした。

しかし、あんなにケーキを楽しみに待っていた岳史君が迎えに来たお母さんに何か不満そうに言っています。

次の朝、岳史君にその訳を聞いてみると、近所に住む岳史君の、おじいちゃんとおばあちゃんにも誕生日ケーキを食べさせたかったのにそれをお母さんにうまく伝えられず、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に誕生日ケーキを食べられなかったというのです。

それからしばらくたって妹の史佳ちゃんのお誕生日となりました。私は岳史君のおじいちゃんやおばあちゃんへの優しさが嬉しかったのでお誕生日のケーキをプレゼントしました。次の日、私は岳史君に「みんなで食べたの？」と聞くと岳史君は「園長先生の分一切れだけ残してある」と言います。

入園当時は、兄妹でなんでも取り合っていたのに私は兄妹の成長した姿に感動しました。

毎年、保育園を卒園した小学生を招待して春にはお花見カレー、秋には焼き芋、年末には年越しそばを一緒に楽しみます。

子供達がみんなで分け合いながら、「これ美味しいよ!」「うん、美味しいね」の会話があふれます。

こんな思いをずっと大切にしてほしいと願っています。